年間授業計画様式例

都立橋高等学校　令和5年度　教科 外国語（英語）科目 コミュニケーション英語Ⅱ　年間授業計画

教　　科： 外国語　　科　　目： コミュニケーション英語Ⅱ　　単位数： 3単位
対象学年組： 第３学年A組～F組

教科担当者：教科担当者：

使用教科書（COMET　English Communication Ⅱ　数研出版）
使用教材　：（『コーパス1800』東京書籍、『ラーナーズ高校英語』数研出版

	指導内容	科目CEⅡの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
4月	Lesson６　Why is it that shape ・that 節 ALTの授業を通して、基本的な会話表現を身につけ、場面に応じたコミュニケーションがとれるようにする。	・語彙修得、内容理解、レッスンに出る語句を発音できるようにする ＜文型・文法事項＞ 関係代名詞　ＷＨＡＴ	・観察 ・ノート ・提出物 ・自己評価、相互評価 ・小テスト	4
5月	Lesson７　Fuji ,a Dolphin with a new fin ALTの授業を通して、基本的な会話表現を身につけ、場面に応じたコミュニケーションがとれるようにする。	・語彙修得、内容理解、レッスンに出る語句を発音できるようにする ＜文型・文法事項＞ 過去完了、文を作ることができる。	・観察 ・ノート ・提出物 ・自己評価、相互評価 ・小テスト	9
6月	Lesson８　Do we need that? 使役動詞 ALTの授業を通して、基本的な会話表現を身につけ、場面に応じたコミュニケーションがとれるようにする。	・語彙修得、内容理解、レッスンに出る語句を発音できるようにする ＜文型・文法事項＞ レッスンの文法項目を理解し、文を作ることができる。	・観察 ・ノート ・提出物 ・自己評価、相互評価 ・小テスト	10
7月	Lesson９　Ｃｈａｎｇｉｎｇ　Ｆｅｅｌｉｎｇｓ 関係代名詞 ALTの授業を通して、基本的な会話表現を身につけ、場面に応じたコミュニケーションがとれるようにする。	・語彙修得、内容理解、レッスンに出る語句を発音できるようにする ＜文型・文法事項＞ レッスンの文法項目を理解し、文を作ることができる。	・観察 ・ノート ・提出物 ・自己評価、相互評価 ・小テスト	2

	指導内容	科目CEⅡの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
9月	L10　Architect of paper 関係副詞　　ALTの授業を通して、基本的な会話表現を身につけ、場面に応じたコミュニケーションがとれるようにする。	・語彙修得、内容理解、レッスンに出る語句を発音できるようにする ＜文型・文法事項＞ レッスンの文法項目を理解し、文を作ることができる。	・観察 ・ノート ・提出物 ・自己評価、相互評価 ・小テスト	9
10月	L 11　　Win for our nation 知覚動詞　　ALTの授業を通して、基本的な会話表現を身につけ、場面に応じたコミュニケーションがとれるようにする。	・語彙修得、内容理解、レッスンに出る語句を発音できるようにする ＜文型・文法事項＞ レッスンの文法項目を理解し、文を作ることができる。	・観察 ・ノート ・提出物 ・自己評価、相互評価 ・小テスト	9
11月	L12　From small factories to the world 仮定法　　ALTの授業を通して、基本的な会話表現を身につけ、場面に応じたコミュニケーションがとれるようにする。	・語彙修得、内容理解、レッスンに出る語句を発音できるようにする ＜文型・文法事項＞ レッスンの文法項目を理解し、文を作ることができる。	・観察 ・ノート ・提出物 ・自己評価、相互評価 ・小テスト	9
12月	L12　　Acting for the future ALTの授業を通して、基本的な会話表現を身につけ、場面に応じたコミュニケーションがとれるようにする。	・語彙修得、内容理解、レッスンに出る語句を発音できるようにする ＜文型・文法事項＞ レッスンの文法項目を理解し、文を作ることができる。	・観察 ・ノート ・提出物 ・自己評価、相互評価 ・小テスト	9
1月	L12　　Acting for the future ALTの授業を通して、基本的な会話表現を身につけ、場面に応じたコミュニケーションがとれるようにする。	・語彙修得、内容理解、レッスンに出る語句を発音できるようにする ＜文型・文法事項＞ レッスンの文法項目を理解し、文を作ることができる。		7

様式　1

令和５年度　年間授業計画

都立　橘　高等学校

教科：保健体育科　科目：体　育　対象：(第３学年　Ａ組～Ｆ組)

教科担当者：
教科担当者：

使用教科書	最新高等保健体育	

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一学期	1・陸上競技（走り高跳び） 課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 2・新体力テスト 実施によって健康の保持増進や体力の向上を図り、運動の計画を立て実生活に役立てることができるようにする。 3・球技（ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ・ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ・ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ・卓球・ｱﾙﾃｨﾒｯﾄ） 作戦や状況に応じた技能や仲間との連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 4・水泳 水泳の事故防止に関する心得など健康・安全を確保できるようにする。運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。	（ア）跳の基本特性に触れ、運動体感を通して陸上競技の楽しさを認識できる。 （イ）具体的な目標記録を掲げ、それに向かって練習ができる。 （ウ）役割を積極的に引き受け、自己の責任が果たすことができる。 （ア）各個人の体力・運動能力の現状を正確に確認できる。 （イ）不足している能力を高めるために、色々なスポーツ活動に親しむことが確認できる。 （ウ）心身を鍛錬して、健康で充実した学校生活が送れるよう努力させる。 （ア）安全に留意し、正しい用具の使い方を確認する。 （イ）基本技能を正確に身につけるとともに、相手に応じた展開ができる。 （ウ）ゲームを行うことによって必要な技術を高め、相手に合わせた作戦を立ててゲームが展開できる。 （エ）ネット型では状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防が展開できる。 （オ）ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などの攻防が展開できる。 （ア）個人のみならず、お互いの安全を適宜確認することができる。 （イ）ある程度長い距離を泳ぐことができる。 （ウ）各種泳法（４種目）の技能を高め、個人メドレーができるようにする。 （エ）得意種目の強化を図り、総合的な水泳能力の向上を図る。 （オ）目標や到達度を時間や距離など客観的な数字で表し、学習の成果を一人ひとりで確認できる。	**関心・意欲・態度** 各種目の特性に関心を持ち、練習する楽しさや喜びを味わえるように自ら学習に取り組んでいるか。お互いの良さを認め合い、協力して練習したり話し合おうとしているか。 **思考・判断** 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して自己や仲間の課題に応じた種目（スポーツ）を継続するための取り組み方を工夫しているかどうか。 **知識・理解** 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会（ゲーム）の仕方などを理解しているかどうか。 **技術** 各種目の特性や魅力に応じて、最終的にはゲームを展開するための作戦や状況に応じた動きを身に付けているか。	６ｈ ２ｈ 6ｈ ４～５ｈ （６）
二学期	1・水泳 水泳の事故防止に関する心得など健康・安全を確保できるようにする。運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 2・球技（ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ・ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ・ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ・卓球・ｱﾙﾃｨﾒｯﾄ・ｻｯｶｰ） 作戦や状況に応じた技能や仲間との連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 3・ダンス 感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、特有の表現や踊りを高めて、交流や発表ができるようにする。	（ア）個人のみならず、お互いの安全を適宜確認することができる。 （イ）ある程度長い距離を泳ぐことができる。 （ウ）各種泳法（４種目）の技能を高め、個人メドレーができるようにする。 （エ）得意種目の強化を図り、総合的な水泳能力の向上を図る。 （オ）目標や到達度を時間や距離など客観的な数字で表し、学習の成果を一人ひとりで確認できる。 （ア）安全に留意し、正しい用具の使い方を確認する。 （イ）基本技能を正確に身につけるとともに、相手に応じた展開ができる。 （ウ）ゲームを行うことによって必要な技術を高め、相手に合わせた作戦を立ててゲームが展開できる。 （エ）ネット型では状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防が展開できる。 （オ）ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などの攻防が展開 （ア）簡単な動きを作り、イメージを持ったひと流れの動きができる。 （イ）イメージ課題を手がかりにして、創り出した動きを空間の変化を利用してダイナミックに表現できる。 （ウ）テーマにそって、表現を深めながら作品作りができる。 （エ）グループ内や他のグループと動きを見せ合って、的確なアドバイスができる。 （オ）発表会に向けてプログラムや演出の工夫などができる。 （ウ）自分たちの工夫した作品を、感じを込めて発表できる。	**関心・意欲・態度** 各種目の特性に関心を持ち、練習する楽しさや喜びを味わえるように自ら学習に取り組んでいるか。お互いの良さを認め合い、協力して練習したり話し合おうとしているか。 **思考・判断** 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して自己や仲間の課題に応じた種目を継続するための取り組み方を工夫しているかどうか。 **知識・理解** 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会（ゲーム）発表会の仕方などを理解しているかどうか。 **技術** 各種目の特性や魅力に応じて、最終的にはゲームを展開するための作戦や状況に応じた動きを身に付けているか。	１～３ｈ（６） 10ｈ 9ｈ
三学期	1・球技総合選択 ○サッカー ○バスケットボール ○バドミントン ○卓球 作戦や状況に応じた技能や仲間との連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。	（ア）安全に留意し、正しい用具の使い方を確認する。 （イ）基本技能を正確に身につけるとともに、相手に応じた展開ができる。 （ウ）ゲームを行うことによって必要な技術を高め、相手に合わせた作戦を立ててゲームが展開できる。 （エ）ネット型では状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防が展開できる。 （オ）ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などの攻防が展開できる。 （カ）生涯にわたってスポーツを継続するために自己に適した運動機会を持ち、ライフスタイルに応じたスポーツとのかかわり方が理解できる。	関心・意欲・態度 公正、協力、責任、参画などに対する意欲が高まっている。 思考・判断 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度が培われている。 知識・技術 健康、安全や運動についての理解とゲームを自主的に展開できる技能を身に付けている。	20ｈ

様式　1

令和５年度　年間授業計画

都立　橘　高等学校

教科：　産業　科　科目：　情報演習　　単位数　２単位　対象：(第３学年　Ａ組～　Ｆ組)（第__学年　選択）

教科担当者：

（__群_____印）（__群_____印）（__群_____印）（__群_____印）（__群_____印）（__群_____印）

使用教科書	なし	使用副教材等	自校作成　教科書

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一学期	１．ネット社会で情報を伝える 　現在のネットワーク社会の中で､正確な情報を伝えるための知識を身につける ２．Web ページのスタイルと設定 　web ページを実際に作成・体験を通して、現在の書式設定の詳細を身につける。 ３．ＨＴＭＬ５ 　現在普及している､スマートフォンやタブレットに対応する web ページの構成方法を身につける ４．インターネットの仕組み 　インターネット内の情報の流れについて､ドメイン名とＩＰアドレスの関係から詳細を身につける。	(ｱ)現在のネットワーク社会を担っているひとつである HTML の歴史を知ることで、情報の正しい伝え方を知る。 (ｲ)ＨＴＭＬ５を中心に、正しい書式の使用ができる。 (ｳ)ブラウザに関する違いを知ると共に、今後の動向を予測する。 (ｴ)各企業の web ページを閲覧から、各企業の販売戦略を理解する。 (ｵ)知的所有権と個人情報の保護について理解する。 (ｱ)スタイルシートの基礎的な初期構造と設定方法を理解する。 (ｲ)各種文字装飾の設定方法を理解し作成できる。 (ｳ)css の詳細設定方法を理解し、適切な処理ができる。 (ｴ)画像の表示位置設定と代替テキストの必要性を理解宇する。 (ｵ)web ページの画面構成が、自由にできるようになる。 (ｱ)新しい HTML5 について、基本的考え方を理解する。 (ｲ)端末の種類に依存しない設定から、タブレット表示を理解する。 (ｱ)ＵＲＬとＩＰアドレスについて、基礎・基本を理解する。 (ｲ)ドメイン名とＩＰアドレスの登録方法を実際を理解する。 (ｳ)JPNIC とルートサーバーから、IP アドレスの引き方を理解する。	知識・理解の達成度 　定期考査により判断 　ノートやレポートの提出から判断 関心・意欲 　実習及び授業に向かう参加態度により判断 思考判断 　授業での発言や、作品より判断	4 時間 10 時間 4 時間 6 時間
二学期	５．標本化と量子化 　音の波を題材として､アナログ波形を如何にしてディジタル情報に変換されていくのかを、理解するとともに、A/D 変換を学習する。 ６．音楽のディジタル化 　作曲という作業を通して､音楽情報のディジタル化を理解し、MIDI 規格のあり方を学習する。 ７．バーコード 　商品流通と商品管理で利用されるバーコードの原理を知ることで､今後の流通のあり方を推測できるようになる。	(ｱ)アナログ情報からディジタル情報へ変換する基礎が理解できる。 (ｲ)標本化・量子化・符号化を音の波から体験させ、再生時にどれだけ違ってしまうか、体験から最適な数値を算出することができる。 (ｳ)ＣＤで使用されている標本化と量子化の値から、情報の容量について理解する。 (ｱ)楽譜の基本的知識を身につけることで、楽譜はディジタル表現であることを理解する。 (ｲ)アナログとディジタルの対比から、伝え方の正確さを楽譜から理解する。 (ｳ)MIDI 規格について、音の三要素から基礎・基本を理解する。 (ｴ)実際に作曲作業を行うことで、適切な数理の考え方を理解する。 ((ｱ)一次元バーコードの歴史と JAN コードについて理解し、世界統一規格を深める。 (ｲ)二次元バーコードの歴史と、特徴等を理解し、今後の発展と方向性について自分の意見をまとめることができる。	知識・理解の達成度 　定期考査により判断 　ノートやレポートの提出から判断 関心・意欲 　実習及び授業に向かう参加態度により判断 思考判断 　授業での発言や、作品より判断	6 時間 8 時間 8 時間 4 時間
三学期	８．商品流通とデータベース 　コンビニエンスストアの POS システムを教材に､データベースの基礎・基本を理解する。 ９．リレーショナル・データベース 　リレーショナル･データベースを実際に構築することで､正規化によるシステムの設計ができる。	(ｱ)現在の商品流通システムから、データベースシステムを理解する。 (ｲ)コンビニエンスストアでの POS システムを例に、世界規模のデータベースのあり方を理解する。 (ｳ)データベースの種類と特徴を身につける。 (ｴ)DBMS について、銀行の金融システムから学習し、特徴と利点を理解する。 (ｱ) リレーショナル・データベースの基本的考え方を理解する。 (ｲ)正規化について、その必要性と応用性について理解し、自ら設定できるようになる。 (ｳ)E-R 図の組み立て方法を理解する。 (ｵ)データベースシステムを実際に作成し、基礎・基本を理解する。	知識・理解の達成度 　定期考査により判断 　ノートやレポートの提出から判断 関心・意欲 　実習及び授業に向かう参加態度により判断 思考判断 　授業での発言や、作品より判断	4 時間 4 時間

様式　1

令和５年度　年間授業計画

都立　橘　高等学校

教科：３年課題研究　科目：建築系技能　対象：(第３学年　A組～　F組)（第３学年　課題研究）

教科担当者：(課題研究　　㊞)

使用教科書	なし	使用副教材等	なし

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一学期	・建築系技能の基本技術	（１）　木造住宅の仕組みについて学ぶ （２）住宅平面図および立面図作成手順について学ぶ （３）条件別プランニング	出席状況、作品の完成度、協調性、整理整頓等を総合的に判断して評価する 関心、意欲、態度については、授業中および課題提出等の学習状況を考慮する 知識、理解については作業内容の正確さや授業中の発問により、評価する 技能、表現、思考については、授業に対する姿勢および作品の完成度、発表時の他の生徒への関心により評価する	2 １４ １２
二学期	・建築図面表現・模型表現方法を学ぶ	（４）プラン内容チェック （５）模型製作準備 （６）模型製作方法を学ぶ （７）使用工具の使い方 （８）模型製作		３０
三学期	・建築模型の仕上げ表現等を学ぶ	（９）模型製作続き （１０）住宅及び庭園計画を学ぶ （１１）庭園装飾仕上げ方法を学ぶ （１２）全体仕上		１２

年間授業計画様式

東京都立橘高等学校令和5年度　教科　国語　科目　現代文Ｂ　年間授業計画

教　　科: 国語科　　科目　現代文B　単位数:　2単位

対象学年組: 第3学年A組～F組

教科担当者:

使用教科書:(　第一学習社『高等学校改訂版標準現代文B』　)

使用教材　:(　パーフェクト常用漢字、ビジュアルカラー国語便覧、準拠ワーク)

教科の目標：近代以降の文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

【知識及び技能等】　(　　読解に必要な語句の意味や表現技巧等を理解している。　　)

【思考力・判断力・表現力等】　(　　本文を根拠として考え、自分の意見をもった上で、適切に表現している。　　)

【主体的に学習に取り組む態度】　(　　進んで本文を読み、課題に取り組もうとしている。　　)

科目の目標：

【知識及び技能等】	【思考力・判断力・表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
読解に必要な語句の意味や表現技巧等を理解している。	本文を根拠として考え、自分の意見をもった上で、適切に表現している。	進んで本文を読み、課題に取り組もうとしている。

	単元ごとの指導目標	指導項目・内容	評価の観点・方法	知識	思考	判断	配当時数
1学期	単元名･･･「新しい視点」 【知識】:語句の意味を理解している。 【思考】:人間が備え持つ力について理解することができる。 【態度】：進んで本文を読もうとしている。	教材:「物語を発現する力」等 ・筆者の心情をやメッセージを的確に捉える。 ・エピソードとなる具体例に着目し、筆者の主張を的確に捉 える。	【知識】：ワークシート・定期考査 【思考】：ノート記述・定期考査 【態度】：ワークシート	○	○	○	4
	単元名･･･「生への思索」 【知識】:語句の意味を理解している。 【思考】:本文を根拠として解釈できている。 【態度】：進んで本文を読もうとしている。	教材:「鏡としての他者」等 ・比喩表現に着目し、「自己」というものについて理解する。 ・エピソードとなる具体例に着目し、筆者の主張を的確に捉 えている。	【知識】：ワークシート・定期考査 【思考】：ノート記述・定期考査 【態度】：ワークシート	○	○	○	4
	単元名･･･「小説を読む（一）」 【知識】:語句の意味を理解している。 【思考】:場面ごとの登場人物の心情を理解することができ 【態度】：進んで本文を読もうとしている。	教材:「話を聞かせて」等 ・登場人物の発言に着目し、発言の裏に隠された心情 を理解する。 ・学習を通して、自分事として考え、働くことへの意識を 高める。	【知識】：ワークシート・定期考査 【思考】：ノート記述・定期考査 【態度】：ワークシート	○	○	○	5
	単元名･･･「新しい視点」 【知識】:語句の意味を理解している。 【思考】:本文を根拠として解釈できている。 【態度】：進んで本文を読もうとしている。	教材:「記憶のゆがみ」等 ・筆者の心情をやメッセージを的確に捉える。 ・エピソードとなる具体例に着目し、筆者の主張を的確 に捉える。	【知識】：ワークシート・定期考査 【思考】：ノート記述・定期考査 【態度】：ワークシート	○	○	○	4
	定期考査			○	○		2
2学期	単元名･･･「小説を読む（三）」 【知識】:語句の意味を理解している。 【思考】:本文を根拠に解釈できている。 【態度】：進んで本文を読もうとしている。	教材:「こころ」等 ・近代小説の名作に親しみ、場面効果や登場人物の心情の変化等について表現に即して読み味わう。	【知識】：ワークシート・定期考査 【思考】：ノート記述・定期考査 【態度】：ワークシート	○	○	○	15
	単元名･･･「人間と社会」 【知識】:語句の意味を理解している。 【思考】:本文を根拠に解釈できている。 【態度】：進んで本文を読もうとしている。	教材:「経験の教えについて」等 ・幅広い視点からの文章を読むことをとおして、我が国 の言語文化の特質について理解を深める。	【知識】：ワークシート・定期考査 【思考】：ノート記述・定期考査 【態度】：ワークシート	○	○	○	6
	定期考査			○	○		2
3学期	単元名･･･「小説を読む（二）」 【知識】:語句の意味を理解している。 【思考】：本文を根拠に解釈できている。 【態度】：進んで本文を読もうとしている。	教材:「卒業」等 ・場面効果や登場人物の心情の変化等について表 現に即して読み味わう。 ・登場人物の置かれている状況に共感し、自分の 卒業について思いを巡らせる。	【知識】：ワークシート・定期考査 【思考】：ノート記述・定期考査 【態度】：ワークシート	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1

様式　1

令和５年度　年間授業計画

都立　橘　高等学校

教科：理　科　科目：化学基礎　対象：（第 3 学年 D 組選択必修）　単位数：2 単位

教科担当者：（　）

使用教科書	高等学校 改訂 新化学基礎（第一学習社）	使用副教材等	改訂ネオパルノート化学基礎（第一学習社）

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一学期	第Ⅰ章 物質の構成 第１節 物質とその構成要素 第Ⅰ章 物質の構成 第２節 化学結合	● ある混合物を分離するのに、ろ過、蒸留、抽出、再結晶及びクロマトグラフィーの中から、適切な方法を選ぶことができる。 ● クロマトグラフィーや炎色反応、沈殿反応の実験を行い、基本操作を習得するとともに、結果を記録できる。 ● 炎色反応や沈殿反応から成分元素を特定できる。 ● 身の回りの物質を、単体・化合物・混合物に分類することができる。 ● 同素体とは何かを理解し、代表的な元素の同素体の名称を挙げることができる。 ● 物質を構成する粒子は熱運動しており、温度が高くなると熱運動が激しくなることを理解する。 ● 物質の状態は、粒子の熱運動及び粒子間に働く力の大小で決まることを理解する。 ● 物理変化と化学変化の違いについて理解する。 ● 陽子･中性子･電子の電荷及びそれらの質量比について理解する。 ● 原子番号や質量数から陽子･中性子･電子の数を求めることができる。 ● 原子番号 20 までの元素記号が書け、元素の特徴を理解する。 ● 電子殻について理解し、原子番号 20 までの原子の電子配置を、電子殻を用いて表現できる。 ● 原子番号 20 までの原子の価電子の数を求めることができる。 ● イオン化エネルギーなどの元素の周期律と価電子数の変化との関係を理解する。 ● 周期表（族・周期）について理解し、典型元素の 1、2、17、18 族の同族元素の性質が類似していることを電子配置から理解する。 ● 単原子イオンの生成を電子配置から説明できる。 ● イオン結合は、陽イオンと陰イオンの静電気的な引力で生じることを理解し、一般に金属元素と非金属元素はイオン結合を作りやすいことを知る。 ● 陽イオンと陰イオンが結び付く比を理解し、イオンからなる物質の組成式を作ることができる。 ● イオン結晶の性質を理解する。 ● 代表的なイオン結晶の名前とその用途を挙げることができる。	【関心･意欲･態度】 ● 提出物 ● 出席状況 ● 授業態度 ● 実験への参加状況 【知識・理解】 ● 定期考査 ● 小テスト ● 提出物 【思考･判断･表現】 ● 提出物 ● 発表内容	24 時間
二学期	第Ⅰ章 物質の構成 第２節 化学結合 第Ⅱ章 物質の変化構成 第１節 物質量と化学反応式 第Ⅱ章 物質の変化構成 第２節 酸・塩基とその反応	● 自由電子は、価電子が原子に共有されたものであることを理解する。 ● 金属の電気伝導性・熱伝導性・展性・延性等の性質は、自由電子が関係していることを理解する。 ● 構造式を使って、分子を表現できる。 ● 価電子と、共有電子対・非共有電子対について理解する。 ● NH_4^+ を例として配位結合ができる仕組みを理解する。 ● 結合の極性が生じる理由について理解する。 ● 代表的な共有結合の結晶及び高分子化合物の高分子化合物の構造と用途を知る。 ● 元素の原子量・分子量・式量の定義がわかる。 ● 物質量の定義と粒子数との関係を知る。 ● 物質量から粒子数・質量・体積を、計算で求めることができる。 ● 質量パーセント濃度及びモル濃度の計算ができる。 ● 化学変化を理解し、化学反応式で表現することができる。 ● 化学反応式と物質量の関係を知り、粒子数・質量・体積を求めることができる。 ● 酸と塩基の定義を知る。 ● 水素イオン濃度について知り、pH で表すことができる。 ● pH を測定し、酸性・塩基性の強さを理解する。		28 時間
三学期	第Ⅱ章 物質の変化構成 第２節 酸・塩基とその反応 第Ⅱ章 物質の変化構成 第３節 酸化還元反応	● 中和反応によって水と塩が生じることがわかる。 ● 中和反応に必要な水溶液量を計算で求めることができる。 ● 中和滴定の実験を実施し、pH が変化することを知る。 ● 酸化・還元の定義を知る。 ● 酸化数の概念を理解し、求めることができる。 ● 酸化剤・還元剤を知り、酸化還元反応を書くことができる。 ● イオン化傾向について知る。 ● 酸化還元反応が電池や電気分解、漂白剤などに利用されていることを知る。		18 時間

様式　1

令和５年度　年間授業計画

都立　橘　高等学校

教科：理　科　科目：生物基礎　対象：（第３学年 A～F 組選択必修）　単位数：2 単位

教科担当者：

使用教科書	高校生物基礎 新訂版（実教出版）	使用副教材等	高校生物基礎カラーノート 改訂版（実教出版）

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一学期	1 章 生物の特徴 1 節 生物の多様性と協調性 1 章 生物の特徴 2 節 細胞とエネルギー 2 章 遺伝子とその働き 1 節 遺伝情報と DNA 2 章 遺伝子とその働き 2 節 遺伝情報の分配	● 生物の共通性と多様性の具体例を挙げることができる。 ● 原核生物と真核生物の構造上の違いを理解する。 ● ATP でエネルギーが出入りできる仕組みについて理解する。 ● 酵素の触媒作用を理解する。 ● 光合成の反応過程における物質の出入りを理解する。 ● 呼吸の ATP 合成と分解過程を理解する。 ● DNA の塩基配列が遺伝情報になることを理解する。 ● DNA 研究の歴史を知る。 ● ヌクレオチドの構造と、塩基配列について理解する。 ● 細胞周期は DNA の複製と分配の繰り返しであることを理解する。 ● 細胞分裂時に染色体を形成することで、DNA が均等に娘細胞に分配されることを理解する。	【関心・意欲・態度】 ● 提出物 ● 出席状況 ● 授業態度 ● 実験への参加状況 【知識・理解】 ● 定期考査 ● 小テスト ● 提出物 【思考・判断・表現】 ● 提出物 ● 発表内容	24 時間
二学期	2 章 遺伝子とその働き 3 節 遺伝情報とタンパク質の合成 3 章 生物の体内環境とその維持 1 節 体内環境と恒常性 3 章 生物の体内環境とその維持 2 節 体内環境の維持のしくみ 3 章 生物の体内環境とその維持 3 節 免疫	● タンパク質がどのような物質であるかを理解する。 ● DNA の塩基配列が、どのようにアミノ酸の配列に変換されるか理解する。 ● 細胞内で実際にどのように翻訳が行われているか理解する。 ● 遺伝子とゲノム、遺伝子の発現について理解する。 ● 体液とは何かを理解する。 ● 体内環境と、恒常性について理解する。 ● 腎臓における体液の濃度調節のメカニズムを理解する。 ● 無脊椎動物と魚類の体液の濃度調節について理解する。 ● 肝臓の多様な働きを理解する。 ● 交感神経と副交感神経の働きについて理解する。 ● 自律神経系以外の神経系について理解する。 ● 神経細胞と神経伝達物質について理解する。 ● ホルモンと内分泌腺、外分泌腺について理解する。 ● ホルモンの作用機構について理解する。 ● さまざまな内分泌腺とホルモンについて理解する。チロキシンの分泌調節と、水分量の調節について理解する。 ● 血糖値の調節について理解する。 ● 糖尿病について理解する。 ● 体温の調節について理解する。 ● 生体防御の全体像について理解する。 ● 免疫担当細胞と、それぞれの働きについて理解する。 ● 体液性免疫と細胞性免疫の仕組みについて理解する。		28 時間
三学期	4 章 生物の多様性と生態系 1 節 植生と遷移 4 章 生物の多様性と生態系 2 節 気候とバイオーム 4 章 生物の多様性と生態系 3 節 生態系と物質循環 4 節 生態系のバランスと保全	● 植生と遷移について、その全体像を理解する。 ● 光－光合成曲線について理解する。 ● 陽生植物と陰生植物について理解する。 ● 植生について理解する。 ● 3 タイプの植生について、説明することができる。 ● 乾性遷移と湿性遷移について理解する。 ● 一次遷移と二次遷移について理解する。 ● 世界のバイオームについて理解する。 ● 日本のバイオームについて理解する。 ● 生態系の成り立ちと、物質循環やエネルギーの流れを理解する。 ● 生態系のバランスについて理解する。 ● 人間活動が生態系に与える影響を理解する。		18 時間

様式　1

令和５年度　年間授業計画

都立　橘　高等学校

教科：理　科　科目：物理基礎　対象：（第 3 学年 E 組選択必修）　単位数：2 単位

教科担当者：_

使用教科書	改訂 新編 物理基礎（東京書籍）	使用副教材等	ニューサポート 改訂 新編 物理基礎（東京書籍）

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一学期	第１編 物体とエネルギー 第１章 運動の表し方

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
三学期	第３編 波 　第２章 音 第４編 電気 　第１章 物質と電気抵抗 第４編 電気 　第２章 磁場と交流 第５編 物理学と社会 　第１章 エネルギーの利用 　第２章 物理学が拓く世界	● 音の三要素を知り、大きさと振幅、高さと振動数の関係について理解できる。 ● 共振や共鳴、うなりの現象について理解する。 ● 弦の振動や気柱による共鳴が固有振動や倍振動の組み合わせによって生じるものであることを知り、振動や共鳴の状態を図に表すことができる。 ● 弦の振動や気柱による共鳴の固有振動や倍振動の状態を計算で求めることができる。 ● 静電気の現象から物体が帯電する仕組みを知る。 ● 電流および電圧、抵抗について理解し、オームの法則の式を用いてそれぞれ計算で求めることができる。 ● 導体に電流が流れることで熱が発生することを知り、ジュールの法則からジュール熱を求めることができる。 ● 電流の作る磁場や電磁誘導等から、電気と磁気が密接な関係にあることを知る。 ● 様々なエネルギー資源とそれらの変換について知り、物理学の成果が身近なものに用いられていることを知る。 ● 身の回りの技術に使われている物理学を、興味を持って探究している。	【関心・意欲・態度】 ● 提出物 ● 出席状況 ● 授業態度 ● 実験への参加状況 【知識・理解】 ● 定期考査 ● 小テスト ● 提出物 【思考・判断・表現】 ● 提出物 ● 発表内容	18 時間

様式　1

令和５年度　年間授業計画

都立　橘　高等学校

教科：地理歴史　科目：日本史Ａ　対象：(第３学年Ａ～Ｆ組)　単位数：２単位

教科担当者：(　)

使用教科書	高等学校 日本史Ａ　人・くらし・未来（第一学習社）	使用副教材等	新詳日本史（浜島書店）

	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点 方法	予定 時数
一学期	１．日本のあゆみをふりかえる	１．日本史の全体像を確認し、中学校社会科で学習したことを踏まえて、各時代の流れ等を復習する	■　知識理解の達成度 定期考査により判断。	16 時間
	２．近代への胎動	２．①江戸時代の国際関係、迫ってくる列強について理解する。 ②江戸時代後期の産業の発展と力を蓄える庶民について考察する。 ③近代思想の息吹について理解する。 ④幕末の諸改革について考察する	■　関心・意欲 授業への参加態度、提出物から判断。 ■　思考判断 授業中の発言や、ワークシート、レポートにより判断。 ■　技能 ワークシート、定期考査により判断	4 時間
	３．開国と幕末の動乱	３．①開国の経過と影響について理解する。 ②討幕運動の内容と、経過について理解する。 ③江戸幕府滅亡までの過程を理解する。		8 時間
二学期	４．近代国家の形成	４．①明治政府の誕生とその政策や基本方針について理解し、民衆に与えた影響等について考察する。 ②文明開化によって人にとの生活がどのように変化したのか、資料から読み取り、考察する。 ③明治時代初期の外交について理解する。 ④自由民権運動の原因・結果について理解する。 ⑤日本が立憲国家になるまでの過程を理解し、資料を活用してその実態を考察する	■　知識理解の達成度 定期考査により判断。 ■　関心・意欲 授業への参加態度、提出物から判断。 ■　思考判断 授業中の発言や、ワークシート、レポートにより判断 ■　技能 ワークシートなどにより判断	10 時間
	５．国際関係の推移と近代産業の発展	５．①条約改正の実現までの過程や背景について、各交渉にあたった人物を追いながら考察する。 ②日清戦争の原因、経過、結果について理解し、日清戦争後の東アジア関係を考察する。 ③日露戦争の原因、経過、結果、戦争後の国内の状況・国際関係について理解する。 ④日清戦争後の経済の発展によって社会問題が発生したことを理解する。		10 時間
	６．第一次世界大戦と日本	６．①第一次護憲運動の原因と展開、その後政党政治が行われるまでの過程を理解する。 ②第一次世界大戦の原因・結果・影響について、日本国内の動向と、国際関係から考察する。 ③日本の国際協調外交の内容と影響について理解する。 ④大正時代の民主主義的な風潮の中で生まれた思想や、文化などを理解する。 ⑤経済の発展によって社会運動が激化したことを理解する。		8 時間
三学期	７．第二次世界大戦と日本	７．①昭和初期の不況について、その経過や各国の対応について理解する。 ②満州事変やその後の昭和ファシズムまでの過程について理解する。 ③日中戦争や第二次世界大戦の原因・経過・影響について理解する。 ④戦時中の国民の様子について資料を活用して考察する。	■　関心・意欲 授業への参加態度、提出物から判断。 ■　思考判断 授業中の発言や、ワークシート、レポートにより判断。 ■　技能 ワークシート、レポートにより判断 ■　技能 ワークシートなどにより判断	8 時間
	８．日本の再出発	８．①敗戦直後の占領政治から、日本の「独立」に至るまでの過程を理解する。 ②日本の高度経済成長と、冷戦の展開について理解する。		5 時間
	９．現代の日本と世界	９．21 世紀の日本社会の特徴と課題を考えさせ、これからの日本について展望し、自分なりに表現する。		1 時間